

# 資料一2 災害復旧事業の概要

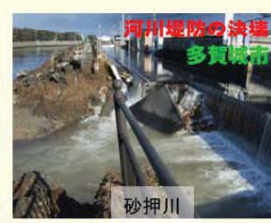


# ○東日本大震災の被災状況

## 東日本大震災 宮城県

- ・マグニチュード **9.0**
- ・死者 **10,295人** ※
- ・行方不明者 **1,479人** ※
- ・浸水面積 **327km<sup>2</sup>**
- ・住家被害 **全壊 85,310棟**  
**半壊 151,486棟**
- ・県内被害総額 ※※ **9兆1,646億円**
- ・公共土木施設被害 ※※ **1兆2,606億円**

※ 平成24年6月30日現在  
※※ 平成24年7月13日現在



### 気仙沼管内の被災状況

気仙沼市

- ・死者 1,203人
- ・行方不明者 260人
- ・住宅被害
  - 全壊 8,483棟
  - 半壊 2,568棟
- ・公共土木施設
  - 海岸 49海岸
  - 河川 11河川

南三陸町

- ・死者 610人
- ・行方不明者 244人
- ・住宅被害
  - 全壊 3,142棟
  - 半壊 173棟
- ・公共土木施設
  - 海岸 36海岸
  - 河川 11河川

## 頻度の高い津波と最大クラスの津波

- 「頻度の高い津波」に対しては、海岸堤防により、人命・財産や種々の産業・経済活動、国土を守ることが目標。
- 1000年に1度と言われる今回のような「最大クラスの津波」に対しては、住民の避難を軸に、土地利用、避難施設の整備などソフト・ハードを総動員する「多重防御」の考え方で減災。

### 頻度の高い津波

- 最大クラスの津波に比べて発生頻度は高い(数十年～百数十年)
- 住民の生命を守ることに加え、住民財産の保護、地域の経済活動の安定化などの観点から、引き続き、比較的頻度の高い津波に対して海岸堤防の整備を進めることが必要

### 海岸堤防の整備

- 海岸堤防により、確実に津波から街を防御する。

### 最大クラスの津波

- 発生頻度は極めて低い
- 施設整備に必要な費用や、海岸の環境や利用に及ぼす影響などの観点から、整備の対象とする津波高さを大幅に高くすることは非現実的
- 住民の生命を守ることを最優先として、住民の避難を軸に、土地利用、避難施設、防災施設などを組み合わせ
- 海岸堤防については、施設に過度に依存した防災対策には限界があることを認識しつつ、低頻度ではあるが大規模な外力に対しても粘り強さを発揮する構造を検討

### 新しい発想による津波防災まちづくり

- 地域ごとの特性を踏まえ、ハード・ソフトの施策を柔軟に組み合わせ、総動員させる「多重防御」の発想による津波防災・減災対策
- 従来の、海岸堤防の「線」による防御から、「面」の発想により、河川、道路や、土地利用規制等を組み合わせたまちづくりの中での津波防災・減災対策 など

## ○海岸堤防高の決定の経過

平成23年度

3月11日 東北地方太平洋沖地震発生

4月11日 宮城県沿岸域現地連絡協議会 第1回開催

【東北農政局, 東北森林管理局, 水産庁, 東北地方整備局, 宮城県(関係課)】

4月28日 「海岸における津波対策検討委員会」 第1回開催

5月28日 中央防災会議 専門調査会 第1回開催

6月26日 中央防災会議 専門調査会 第4回開催 中間取りまとめ

6月27日 「海岸における津波対策検討委員会」 第2回開催

7月 8日 「設計津波の水位の設定方法等について」通知 【各関係省庁】

9月 7日～8日 海岸堤防高について関係市町へ説明

9月 9日 宮城県沿岸域現地連絡協議会 第7回開催において

「宮城県沿岸における海岸堤防高さ」を決定 【関係市町は、オブザーバー】

10月 7日 宮城県議会建設企業委員会へ海岸堤防の高さについて報告

10月21日 気仙沼市による海岸堤防の代替え施設の検討説明

10月26日 「気仙沼市震災復興市民委員会」への海岸堤防の説明

平成24年度

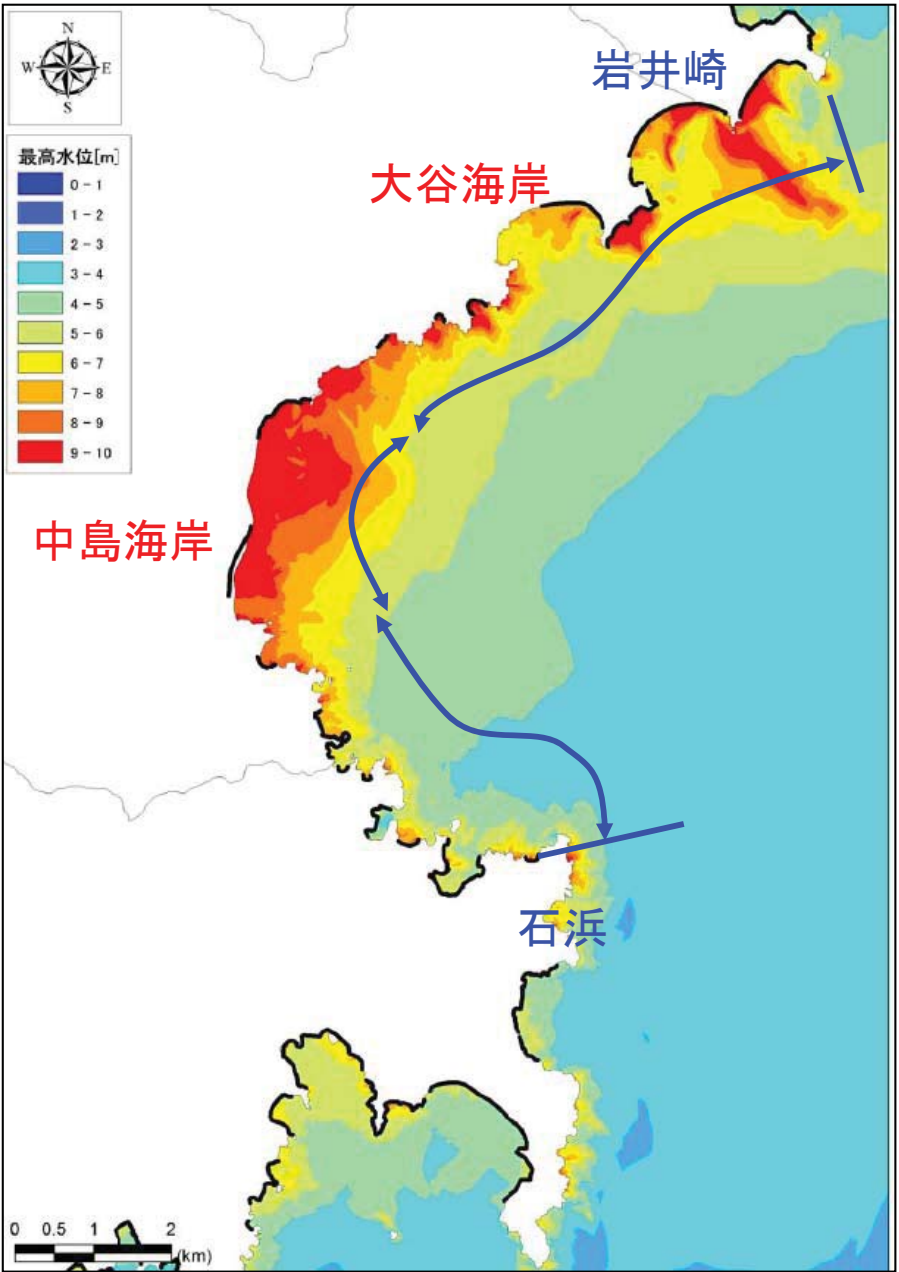
4月～ 実施保留解除手続き開始

まちづくりの説明会において、河川・海岸災害復旧内容の説明開始

7月～

中島海岸の事業説明会開始

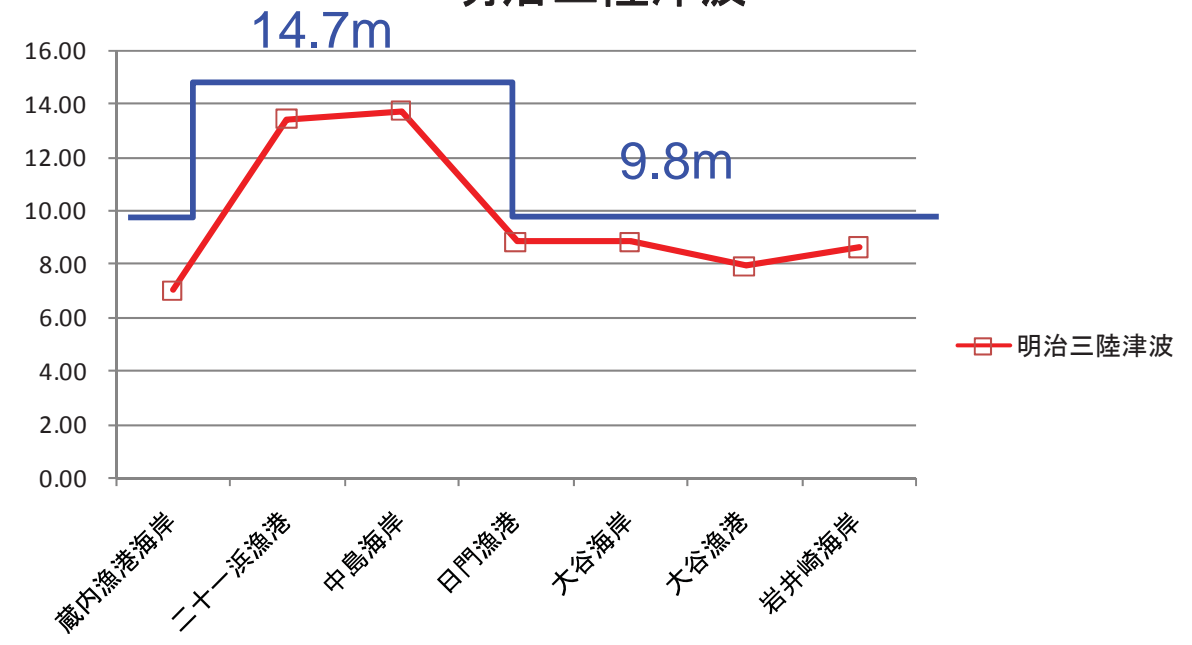
# 設計津波の水位



## 地域海岸内の堤防高の分割

- 地域海岸内の津波の増幅や減衰に着目
- 津波水位の分布を考慮して高さを分割設定
- これまでは、湾毎に高さ設定していた

## 明治三陸津波



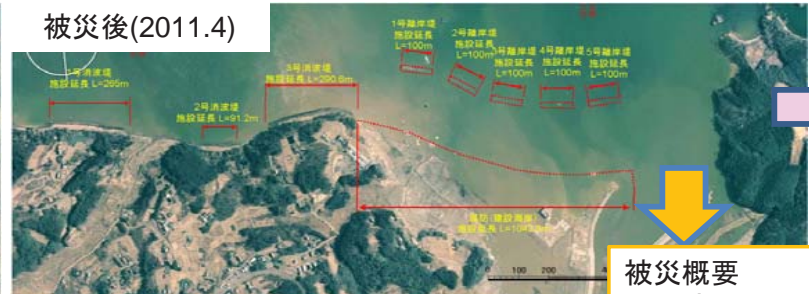
# 中島海岸 復旧概要

## 被災前後の状況

被災前(2009.11)



被災後(2011.4)



被災後(2013.11)



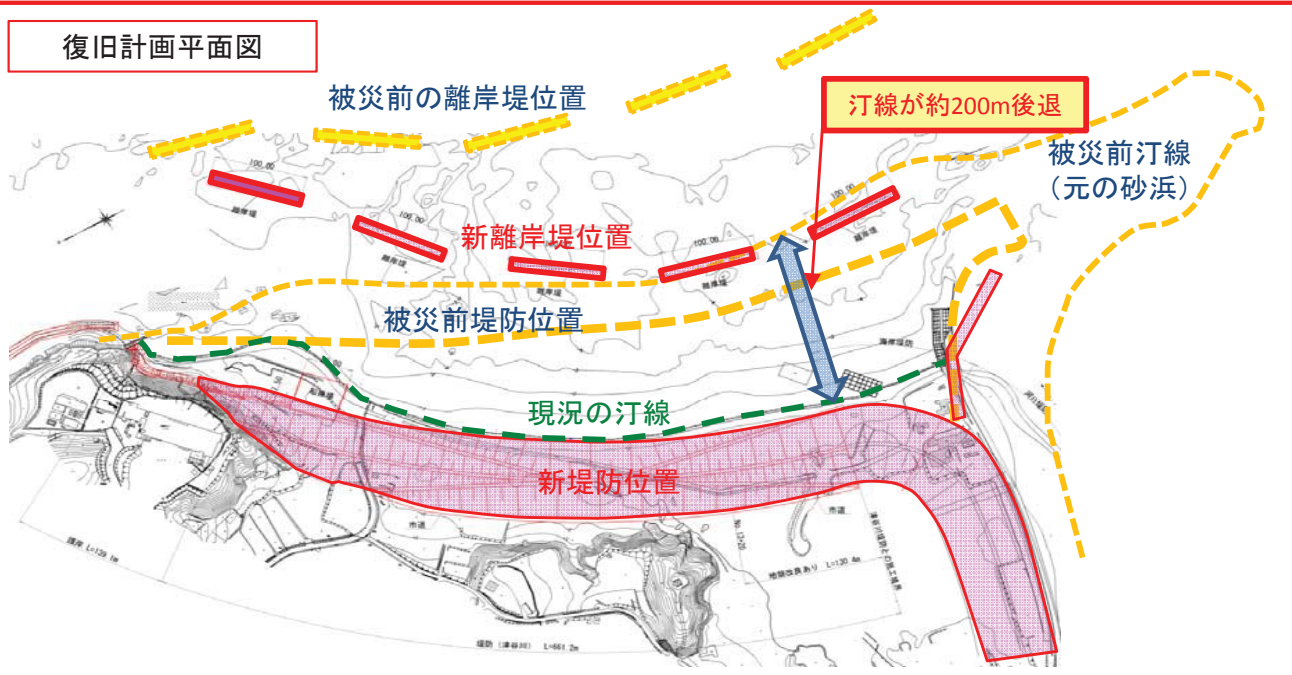
被災後約2年で砂浜が回復傾向を示す

- 被災概要**
- 堤防 L=1,043mが全て流出
  - 汀線が約200m後退
  - 最大洗掘深は約5m
  - 離岸堤5基がほぼ全壊

写真出典：国土地理院

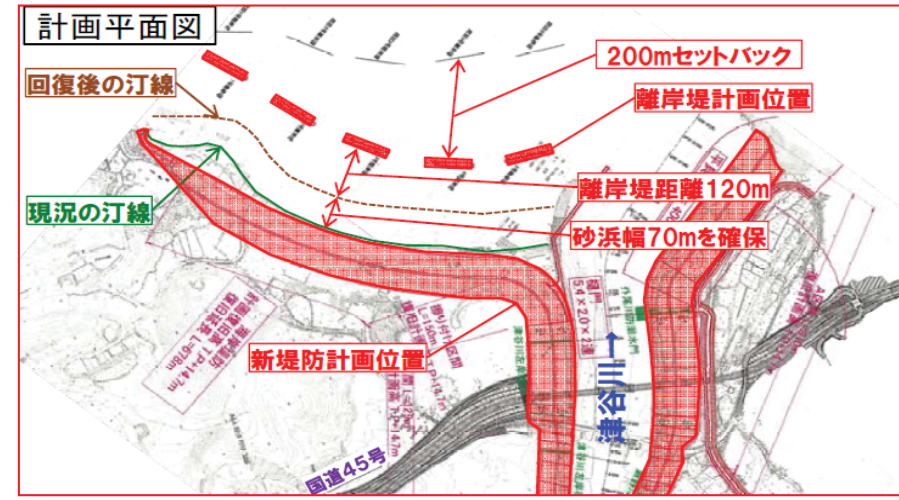
## 災害復旧計画

復旧計画平面図

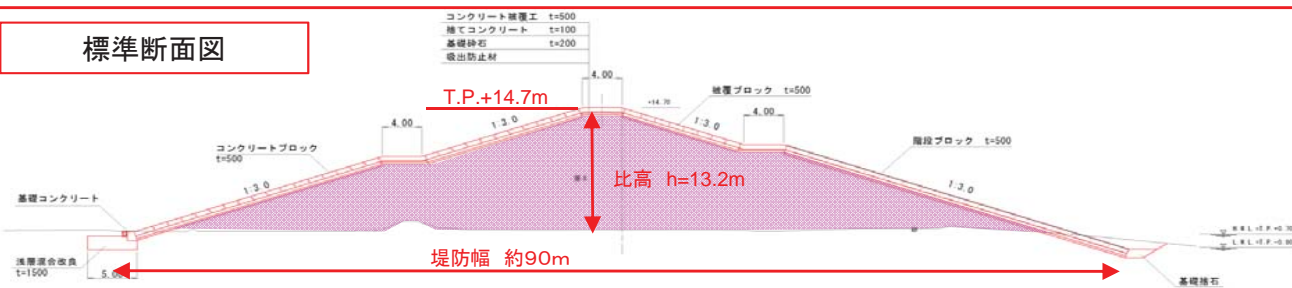


## 復旧の考え方

計画平面図

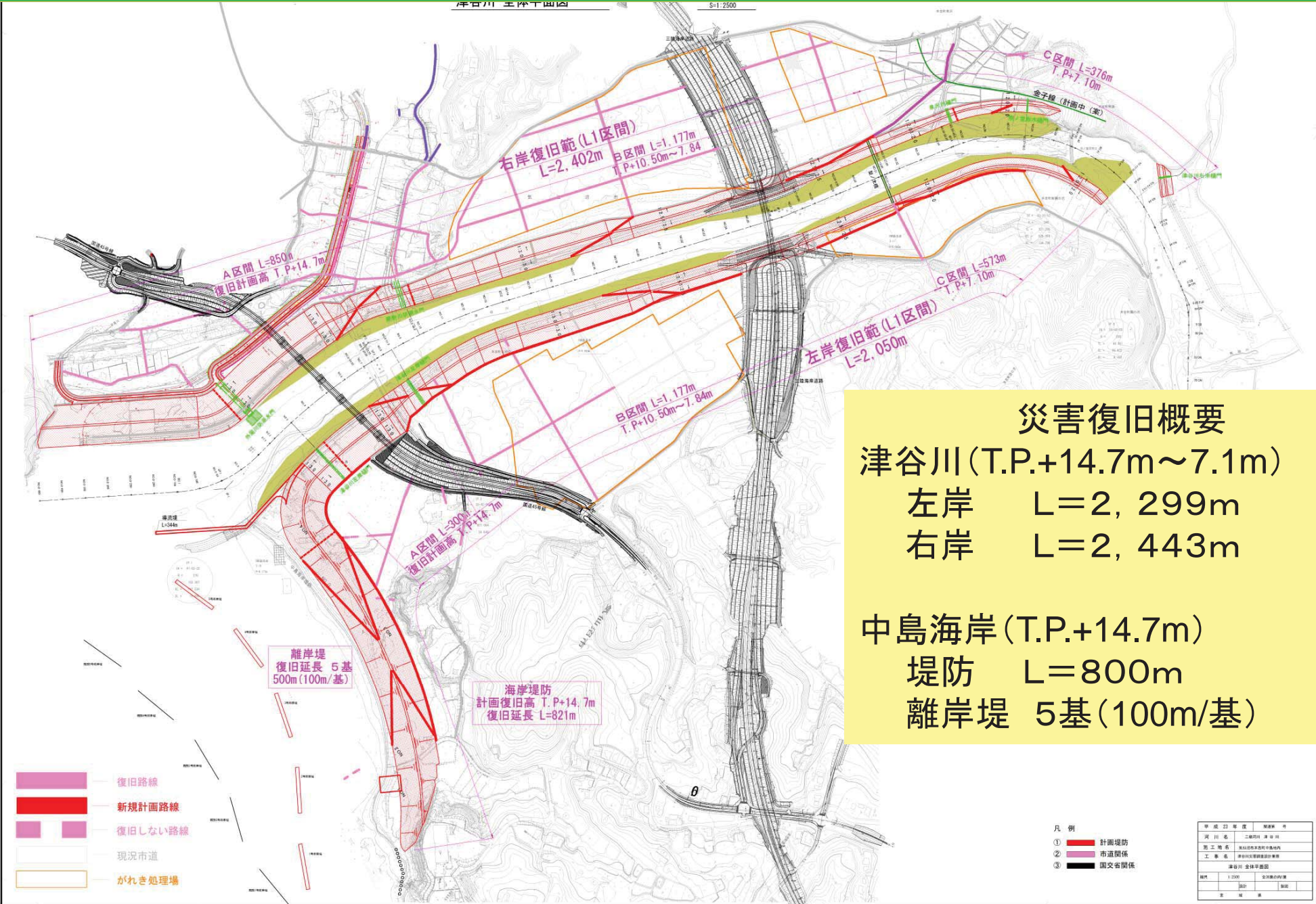


標準断面図



- 【堤防】**
- ・ 現況の汀線を考慮し、被災前より約200m陸側に設定
- 【離岸堤】**
- ・ 従前の離岸距離を確保するため、堤防位置から190m沖合に設置し、砂浜幅は、従前と同じ70mを回復出来るよう計画
- 【突堤】**
- ・ 津谷川河口に突堤を新設し、堆砂しやすい工夫

# 中島海岸・津谷川 平面図



**災害復旧概要**

津谷川 (T.P.+14.7m~7.1m)

左岸 L=2,299m  
右岸 L=2,443m

中島海岸 (T.P.+14.7m)

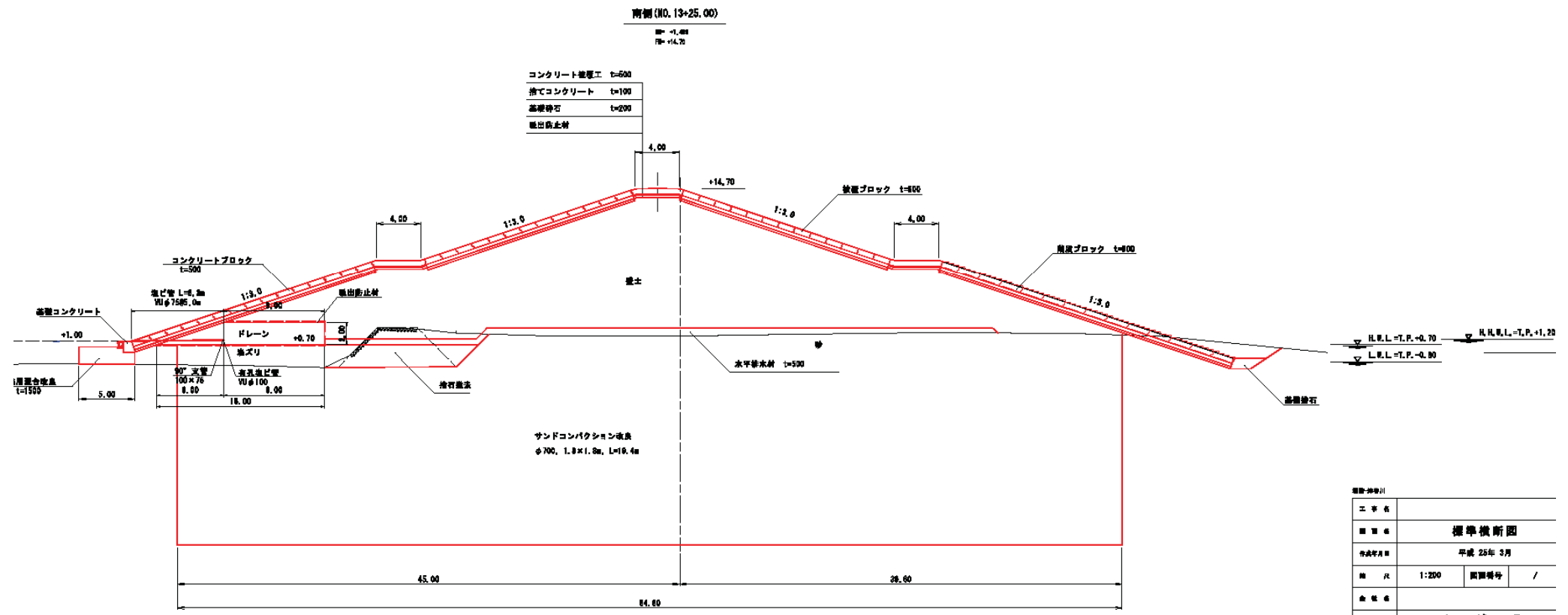
堤防 L=800m  
離岸堤 5基 (100m/基)

凡例

- ① 計画堤防
- ② 市道関係
- ③ 国交省関係

平成 23 年度	宮城県
河川名	二股川 津谷川
施工地名	宮城県宮城郡大島町
工事名	津谷川河川改修工事
津谷川 全体事業図	
縮尺	1:500
設計	宮城県庁
監理	宮城県

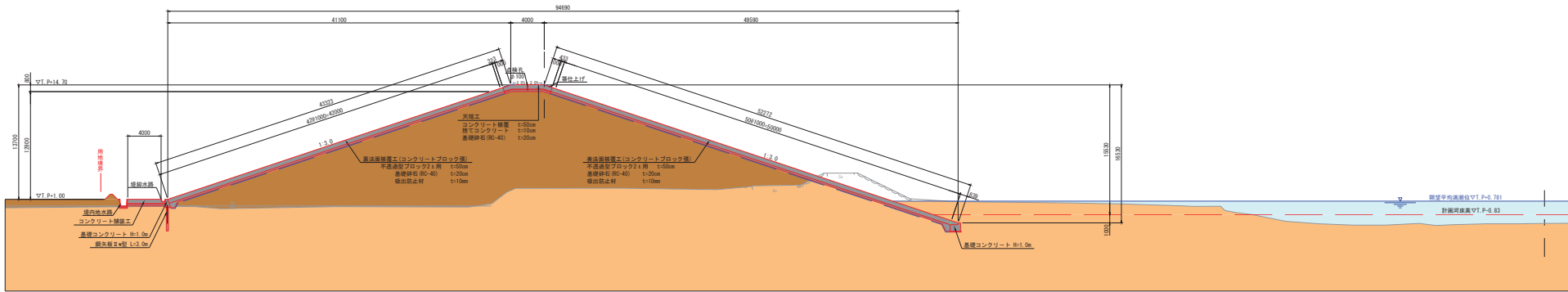
# 中島海岸 標準断面図



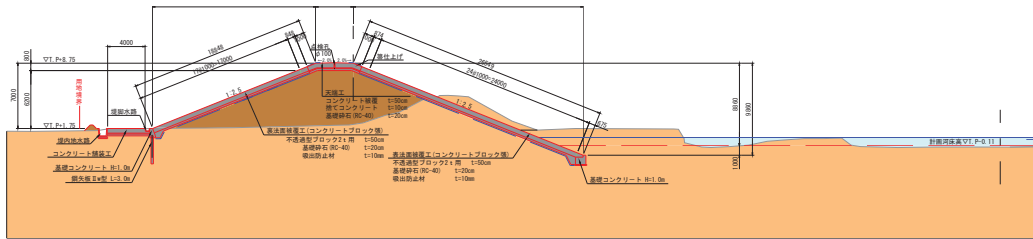


# 津谷川 標準断面図

## No.4



## No.24



## No.37

